

参考資料 4 .

令和 6 年度
機関ごとの具体的な取組

機関ごとの取組状況

番号	機 関 名	取組状況
1	奈良市	奈良市水位情報収集システム導入の検討・整備
2	大和高田市	
3	大和郡山市	
4	天理市	
5	橿原市	
6	桜井市	
7	御所市	
8	生駒市	まるごとまちごとハザードマップの検討
9	香芝市	小中学校や地域を対象とした災害教育の実施
10	葛城市	
11	平群町	小学校や地域を対象とした災害教育の実施
12	三郷町	惣持寺地区調整池整備工事
13	斑鳩町	自主防災組織間の連携強化/災害情報の収集・把握・管理システムの導入
14	安堵町	防災フェスタでハザードマップ配布し防災減災関連の啓発活動を実施
15	川西町	
16	三宅町	
17	田原本町	
18	高取町	
19	明日香村	
20	上牧町	水害リスクの程度に応じた水災害意識の広報(出前講座の実施)
21	王寺町	
22	広陵町	
23	河合町	
24	大淀町	水害リスクの程度に応じた水災害意識の広報(出前講座の実施)
25	奈良県	
26	近畿日本鉄道株式会社	
27	西日本旅客鉄道株式会社	
28	奈良地方气象台	学校管理職員向けの学校安全教育
29	近畿地整 大和川河川事務所	まるごとまちごとハザードマップの整備・更新・周知(訓練への活用)
		小中学校や地域を対象とした水災害教育の実施
		水災害意識啓発の広報
		住民一人一人の避難計画・情報マップの作成促進
		要配慮者利用施設の避難計画作成の促進および避難訓練の促進支援
		タイムラインに基づく訓練の実施/水防団(消防団含む)との伝達訓練の実施
		重要水防箇所の情報共有と関係市町等との共同点検の実施
		排水に関する訓練の実施

奈良市の令和6年度の取組状況

共通 ・ 国管理区間 ・ 県管理区間

取組機関	奈良市	連携機関	なし
取組内容	No37 奈良市水位情報収集システム導入の検討・整備		

【目的】

- 水位センサーを市内の中小河川等に10基程度設置し、それぞれの水位状況をリアルタイムで確認することができるシステムを構築することで、水防活動や地域住民の避難の支援に利活用する。
- 令和7年度4月運用開始予定。

例:押熊川



【効果】

- 水位センサからのリアルタイム水位情報を自動的に収集することで、現場確認のための人員を減少させるとともに、限られた人員を効率的に配分することができる。
- カメラでは判断できない具体的な水位情報を得られることで、数値分析による予測精度を高めた住民への避難情報発令が可能となる。

生駒市の令和6年度の取組状況

共通 ・ 国管理区間 ・ 県管理区間

取組機関	生駒市	連携機関	なし
取組内容	No23 まるごとまちごとハザードマップの検討		

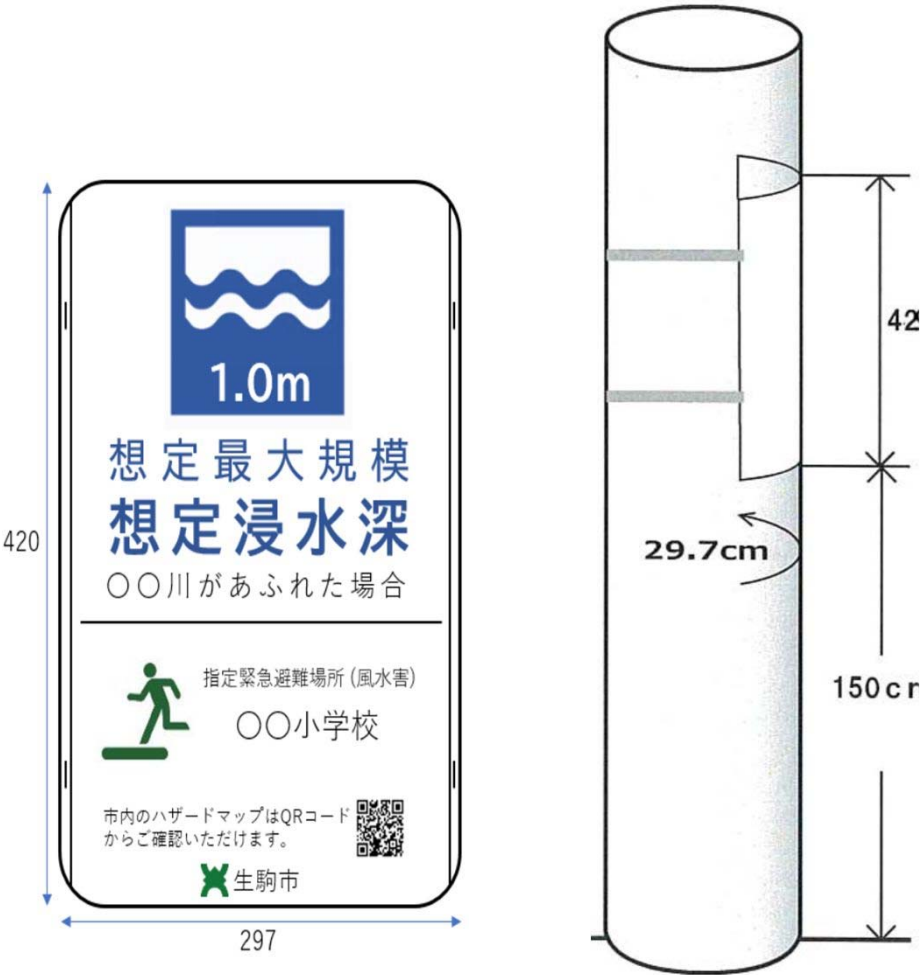
◎取組概要

まるごとまちごとハザードマップを設置中

- 設置枚数: 20枚
- 取付場所: 生駒市内 浸水想定区域から選定
- 実施期間: 令和6年7月23日～令和6年12月27日

主な内容

避難誘導・想定浸水深表示板を電柱等に設置予定です。
平時においては住民、通行者及び旅行者等へ災害リスクを周知し、災害時には避難誘導の助けになることが期待されます。



香芝市の令和6年度の取組状況

共通 ・ 国管理区間 ・ 県管理区間

取組機関

香芝市

連携機関

奈良地方気象台

取組内容

No29 小中学校や地域を対象とした災害教育の実施

◎取組概要

市内小中学校の教職員を対象とした学校危機管理(気象災害への対応)に関する研修の実施

- 日 時: 令和6年8月8日
- 主 催: 香芝市危機管理課、学校支援室
- 参 加 者: 市内14小中学校教職員(校長・教頭)
- 講 師: 奈良地方気象台



研修の目的

教職員が、各小中学校の地域特性に応じて、危険箇所の把握や休校判断などができるようになることを目指し、児童・生徒の安全な登下校を確保するため、市防災担当課と学校担当課が合同で防災研修会を実施しました。

研修内容

- ① 奈良地方気象台より講師を招き、市内全小中学校の教職員(校長・教頭)に対し、防災気象情報の解説とその活用方法について講義を行いました。
- ② 防災気象情報について学んだ後、過去に避難情報が発令された大雨時の気象情報を基に、各学校区に分かれて防災マップを用いたグループワークを実施しました。参加者は、児童・生徒の安全を確保するための対応策について話し合い、各班で結果を発表しました。

平群町の令和6年度の取組状況

共通 ・ 国管理区間 ・ 県管理区間

取組機関	平群町	連携機関	なし
取組内容	No29 小学校や地域を対象とした災害教育の実施		

◎取組概要

地域を対象とした水害教育等の実施

- 日 時 :①令和6年5月19日(日)②令和6年9月12日(木)③令和6年10月21日(月)
- 参加機関 :①平群町 - 光ヶ丘自治会
②平群町 - 平群北小学校
③平群町 - 若井自治会
- 実施期間 :随時実施

工夫した点

- ③ 用語を小学生(4年生48名)にわかる内容に簡単に水害から身を守るための防災学習を実施した

三郷町の令和6年度の取組状況

共通

・ 国管理区間

・ 県管理区間

取組機関

三郷町

連携機関

取組内容

No53 惣持寺地区調整池整備工事

◎取組概要

・令和4年度より、浸水常襲地域である惣持寺地区において地下調整池(計画貯水量16,500 m^3)を整備を開始し、R6年度に竣工した。

(平成29年10月台風29号 惣持寺地区浸水実績)→浸水面積約30,000 m^2 、床上浸水11棟、床下浸水14棟。

・雨水幹線の排水系統の切替工事をR6年度より実施。

排水区を二つに分けることで浸水の解消を図ります。(R6年度より実施、R7年度完了予定。)

・惣持寺地区調整池については、竣工時に地元住民・町内小学生や他府県からの学生の見学会等も実施し、浸水対策事業についての周知の場を設けた。



斑鳩町の令和6年度の取組状況

共通

国管理区間

・ 県管理区間

取組機関

斑鳩町

連携機関

町内自主防災組織等

取組内容

No33 自主防災組織間の連携強化／災害情報の収集・把握・管理システムの導入

◎取組概要

斑鳩町自主防災連絡会の運営

○町内の自主防災組織、防災士、防災に関心のある者の相互の連携強化を目的として令和5年度に設立した「斑鳩町自主防災連絡会」の総会(研修・意見交換会)を実施した。

日 時: 令和6年7月21日(日)

参加機関: ①町内自主防災組織 ②町内防災士
③町内の防災に関心のある方
④奈良県防災士会 ⑤気象庁 奈良地方気象台

実施内容: 意見交換会等を通じ、各団体の活動や、課題などの共有を行った。



災害情報の収集・把握・管理システムの導入

○効率的な災害情報の収集・把握・管理・情報配信を目的に、(株)アルカディアが運用するSpeeCAN Timeline、映像通報システムを導入した。

導入日: 令和6年7月1日～



実施概要:

◆SpeeCAN Timeline(スピーキャン タイムライン)

・現場に出動した職員からの情報や写真について、役場(災害対策本部)との共通の地図上で管理し、情報共有を行う。

・連携する防災アプリ(ハザードン)へ情報連携することが可能であり、住民への通行止情報、浸水区域、避難所開設情報等の情報伝達を行う。

安堵町の令和6年度の取組状況

取組機関	安堵町	連携機関	なし
取組内容	No.24 防災フェスタでハザードマップ配布し防災減災関連の啓発活動を実施		

◎取組概要

安堵町で災害協定先団体等による防災フェスタを開催し、住民などにハザードマップを配布し、防災減災関連を学ぶ啓発を実施

○日時：令和6年11月24日

○参加機関：自衛隊・警察・消防・大和川河川事務所・幸田町、他災害協定締結先団体等

○町災害協定締結団体等による防災関連ブースを設けた他、安堵町消防団や自主防災組織、町ハザードマップ配布ブースを設けて住民に配布を行い防災意識の高揚を図った。

○消防庁から派遣された語り部による防災講演会を実施

工夫した点

①防災講演会において、安堵町は町南部において大和川、富雄川、岡崎川の3河川が合流する地点となっており毎年大雨洪水警報等により水害が多く発生しており講演会の内容を水害対策に沿ったものを選定した。

②自衛隊・警察・消防・ドローン等を体験型としてブースを設置し、多くの住民に直接触れてもらうことで、啓発を行った。

防災フェスタの様子



上牧町の令和6年度の取組状況

取組機関	上牧町	連携機関	奈良県
取組内容	No30 水害リスクの程度に応じた水災害意識啓発の広報（出前講座の実施）		

◎取組概要

避難のタイミング

5 緊急安全確保
命の危険 直ちに安全確保

4 避難指示
危険な場所から全員避難

3 高齢者等避難
危険な場所から高齢者等は避難

2 大雨・洪水注意報（発表中）
自分の避難行動を開始

1 早期注意情報（発表中）
災害への心構えを高める

上牧町洪水ハザードマップ

早めの避難があなたの命を救います!!

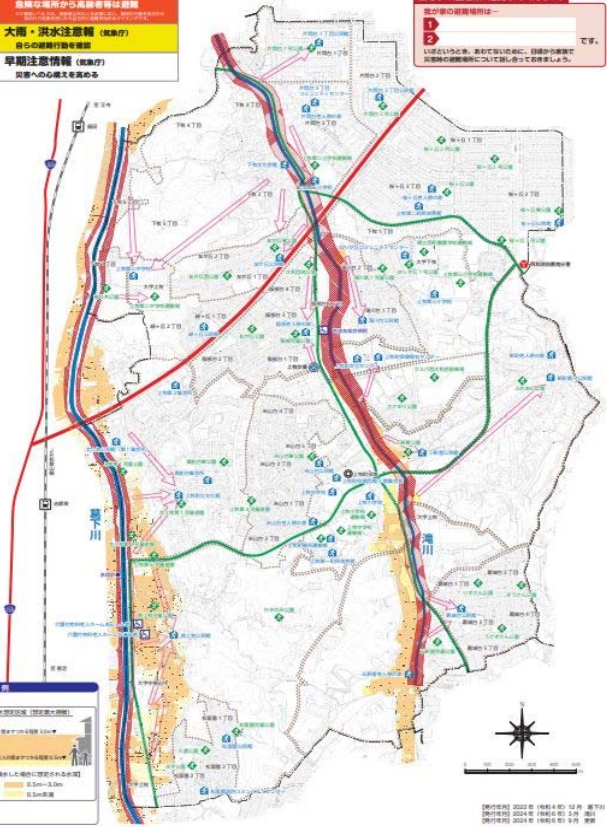
この地域は、沿岸低地が住宅にまで及ぶ危険性があります。
直ちに避難してください。

避難所の避難場所は…

1 2 3

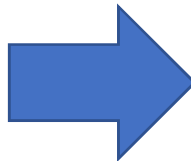
避難所の避難場所は…

1 2 3



防災出前講座の実施

【ワークショップの開催】
上牧町では、自分達の命を自分達で守るために、「土砂災害・水害等の地域防災マップ」を作成しながら、地域の危険な場所を教えあい、話し合い、どうやって避難するかを話し合う場を設け、「土砂災害・水害等の地域防災マップづくり」を通して自助・共助について考える機会を作り、防災意識の向上を目的としたワークショップを開催



【ミニ講座】



【マップ作り】



上牧町ホームページ(防災ページURL)
https://www.town.kanmaki.nara.jp/life_scene/bousai_syoubou/345.html

大淀町の令和6年度の取組状況

共通 ・ 国管理区間 ・ 県管理区間

取組機関	大淀町	連携機関	なし
取組内容	No54 水害リスクの程度に応じた水災害意識啓発の広報（出前講座の実施）		

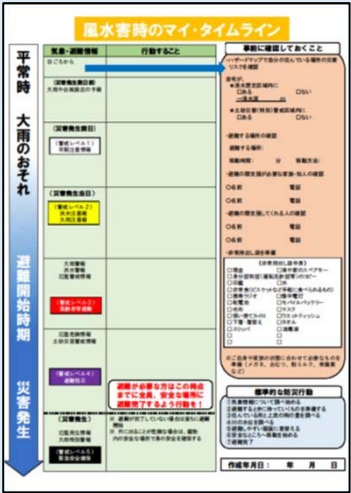
◎取組概要

防災出前講座の実施

令和5年度は全国的に水害による被害が多く発生したことから、水害についての出前講座の依頼が多かった。防災の基本的な内容を中心に、水害・土砂災害の危険性、避難方法や情報収集の方法など、より具体的な内容で講座を行った。

工夫した点

- ①令和3年に作成した町ハザードマップを参加者全員に配布。
改めて自宅周辺の危険区域や避難場所について確認してもらった。
- ②8月5日実施の防災出前講座では、マイ・タイムラインの様式を配布。その場で、開設を交えながら、参加者にマイ・タイムラインを作成してもらった。



奈良地方気象台の取組状況

（学校管理職員向けの学校安全教育）

取組機関名	奈良地方気象台、香芝市
具体的取組	教職員研修
主な内容	・ 気象情報の適切な利用を解説 ・ 対応演習（登校時間に警報が発表されると予想された場合の前日からの対応を検討）

○日時・参加者等

- ・ 日時：2024年8月8日（木）
- ・ 場所：香芝市役所
- ・ 参加者：約80名（香芝市立小中学校全校長・教職員・香芝市職員）
- ・ 概要：奈良地方気象台は香芝市の依頼により、香芝市立小学校及び中学校の校長や教頭、保健指導等担当の教職員を対象に学校危機管理（気象災害への対応）を題材とした教職員研修を実施しました。
第一部：防災気象情報に関する知識や地域の特性などの講演
第二部：防災気象情報と防災マップを利用した学校区別のグループワーク

○講座の様子



研修の様子（防災気象情報の説明）



三橋香芝市長の挨拶



森永気象台長の挨拶



グループワークの様子（場面検討）



グループワークの様子（場面検討）



グループワークの様子（発表）

○参加者からの感想

- ・ 早期注意情報や警報発表状況などの存在を知り、適切な判断のための材料にできそうだと感じました。
- ・ 気象台が発表する、防災気象情報についてもお話があり、より正確で的確な状況判断のため、今後もっと活用していくべきであると感じました。
- ・ 警報の有無だけで休校等の判断するのではなく、予報をもとにした根拠のある的確な判断をする必要性と、その根拠となるソースを知ることができました。
- ・ その校区の地理的特性を理解した上で、対応を検討・判断していきたいと考えています。
- ・ 様々な情報を元にして子どもたちの安全のために判断しなければならないと思ったが、短時間で判断するのは難しいと感じました。新しい情報は保護者にも積極的に伝えていくことが大切だと感じました。

○今後の予定

- ・ 教育委員会との連携を強化し、防災気象に関する学校安全について意識向上を目指す。

大和川河川事務所の取組状況

【1. 避難】住民等の水防災意識社会再構築のための支援 (Phase1に向けて)



水防災意識社会
再構築ビジョン

取組機関名	大和川河川事務所
具体的取組	【No.19】まるごとまちごとハザードマップの整備・更新・周知（訓練への活用）
主な内容	大和川流域自治体へのアンケート調査の実施 ・試行実験として標識設置に協力いただける自治体把握 ・標識設置に関する課題・要望調査

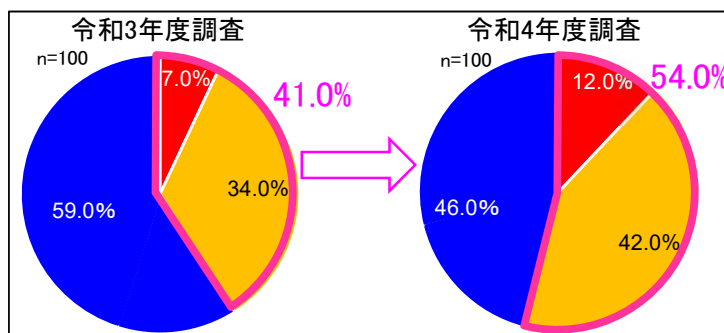
○ アンケート調査の概要

【日 時】令和6年9月6日～9月30日

【対 象】流域自治体

○ 試行実験実施の背景・目的

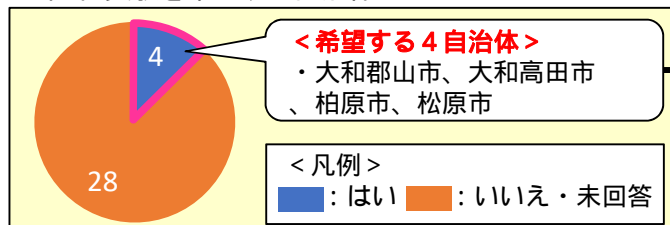
- 現行手引き策定以降、大和川流域において、標識設置数が0枚となっている複数市町存在する。
- 取組の進捗が低い理由の一つとして、具体的な効果や設置の進め方がわからないなどの意見がある。
- 藤井寺市では標識設置による住民防災意識への効果が把握されている（右図）が、設置密度や地域による分析はできていない。
- そこで、まるごとまちごとハザードマップ整備拡大の**試行実験**として、標識設置を市町と協働して実施し、住民防災意識の変化により標識設置効果の分析を進める。



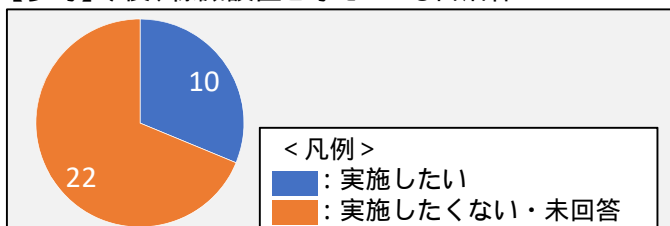
参考 藤井寺市の結果

○ アンケート結果

● 試行実験を希望する自治体



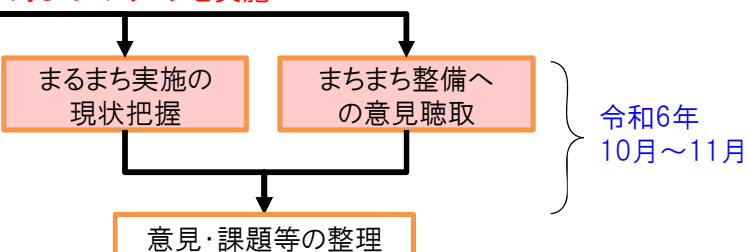
【参考】今後、標識設置と考えている自治体



	主な回答
実施したい	・浸水想定が住民に理解されやすいと考えるため ・標識設置することにより住民の目に留まり、防災意識の向上が期待できるため ・その有用性については理解しているため
実施したくない	・日常生活の中で水害の危険性について啓発できるツールではあるが、標識の設置・維持管理に係る予算確保が難しいため ・費用対効果が不明 ・人員不足

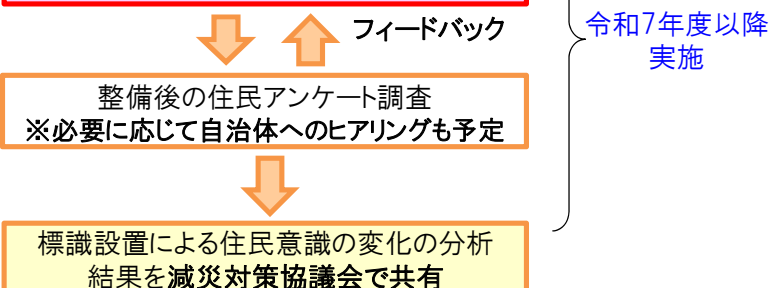
○ 試行実験に向けた調整と今後の対応

試行実験を希望する4自治体に対してヒアリングを実施



具体的検討

- (1) 標識設置箇所の検討(自治体と協働)
- (2) 標識設置形式の検討(自治体と協働)
- (3) 設置前の住民意識調査(河川事務所)
- (4) まるまち標識の設置(河川事務所)



令和7年度は、試行実験希望の4自治体で標識設置予定

大和川河川事務所の取組状況

【1. 避難】住民等の水防災意識社会再構築のための支援 (Phase1～5に向けて)



水防災意識社会
再構築ビジョン

取組機関名	大和川河川事務所
具体的取組	【No.24】小中学校や地域を対象とした水災害教育の実施
主な内容	・大和川の付け替えの歴史 ・大和川の概要 ・流域治水について ・はたらく車について（災害対策車両） ・クイズで学ぶ防災知識 ・質問コーナー

開催概要

- 日 時：令和6年12月19日(月) 10:45～11:30
- 場 所：岸和田市立城東小学校
- 参加者：岸和田市立城東小学校4年生36名 教職員3名
大和川河川事務所 係員3人
※大和川を多くの人に知ってもらうために事前申込みのあった小学校を対象とした

○活用資料・防災教育の様子

●活用資料



防災アニマル診断の クリアファイル

●防災教育の様子



← 岸和田市総合防災マップを使用し、身近な場所の危険性について調べて貰いました！



← 防災に関する知識について、クイズで楽しく分かりやすく学び、さまざまな意見が飛び交いました！

○参加者の感想

- ・避難グッズは、災害が起こってからでは準備出来ないなので、家に帰って準備しようと思った。
- ・大和川は昔に洪水が多かった事を知らなかった。
- ・普段遊びに行くような場所も昔は海だったのがびっくりした！

令和7年度も実施予定

大和川河川事務所の取組状況

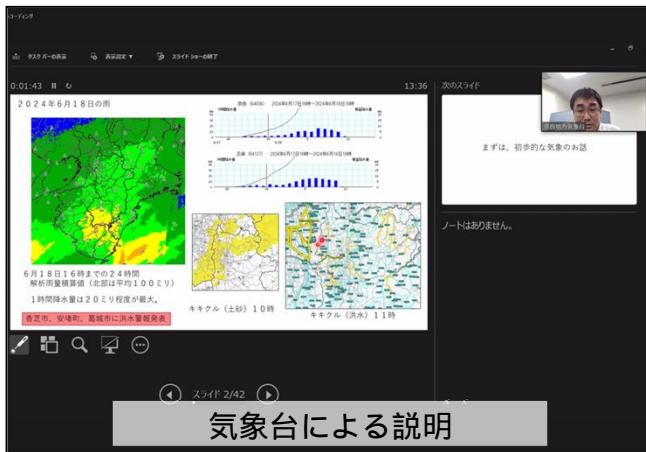
【1. 避難】住民等の水防災意識社会再構築のための支援 (Phase1～5に向けて)

取組機関名	大和川河川事務所・奈良地方気象台・報道機関
具体的取組	【No.25】水災害意識啓発の広報
主な内容	・大和川河川事務所から、大和川の特性及び事業概要、出水時における河川情報について説明 ・奈良地方気象台から、奈良県の気象特性について説明

開催概要

- 日 時：令和6年6月20日(木) 13:30～15:30
- 場 所：奈良地方気象台
- 参加機関：大和川河川事務所、奈良地方気象台、奈良県（防災統括室、河川整備課、砂防・災害 対策課）、
広陵町、香芝市、河合町、大和郡山市、明日香村、三郷町、毎日新聞奈良支局、産経新聞奈良支局、
奈良テレビ、NHK奈良放送局（対面20名、その他web参加者多数）

○ 勉強会の様子



気象台による説明



大和川河川事務所による説明



質疑・意見交換



気象台業務の説明と設備見学

→奈良県内の大和川の氾濫特性や大雨に備えるために住民に確認して欲しい河川情報について、NHK奈良放送局より取材依頼があり、6月25日に放送されました。（<https://www.nhk.or.jp/nara/>）

○ 参加者の感想

- ・先日6月18日の降雨では、大和川の水位上昇が急激であったように見受けられたが、流域の特性などその理由について教えてもらい勉強になった。
- ・報道機関、気象台、河川管理者との交流・意見交換ができて良かった。今後も引き続き同様の機会を持ちたい。また、現場を見てもらいながらの意見交換等も行えたら良いと思う。
- ・気象台の予報業務がどのように実施されているかを見ることができ、参考になった。

大和川河川事務所の取組状況

【1. 避難】住民等の水防災意識社会再構築のための支援 (Phase1～5に向けて)

取組機関名	大和川河川事務所
具体的取組	【No.25】水災害意識啓発の広報
主な内容	・各ブースで学び、スタンプラリーを回った方には自分でできる流域治水グッズを進呈 ・小学生でもわかるマイタイムライン（避難計画）の作成キットの配布 ・イベントブース内でいざという時の避難行動

○開催概要

- 日 時：令和6年8月4日(日)～5日(月) 10:00～18:00
- 場 所：イオンモール大和郡山 1階 北小路コート
- 一般参加：599人（スタンプラリー+アンケート回答者）

○イベントの様子



流域治水の紹介動画

流域治水がわかる動画を見て理解してもらい、住民の皆さんに流域治水をしてもらいました



大和川流域番地

大和川のどこにいいのか分かるサイト(大和川流域番地)で、お住いの近くの川の名前と大和川とのつながりを知ってもらいました



流域治水模型での実験

奈良県の大和川流域を立体的に表した模型で、流域治水対策のある時とない時で水被害がどれだけ減るか視覚的に体験してもらいました



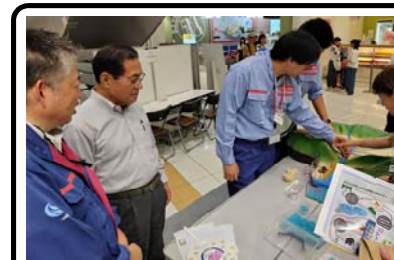
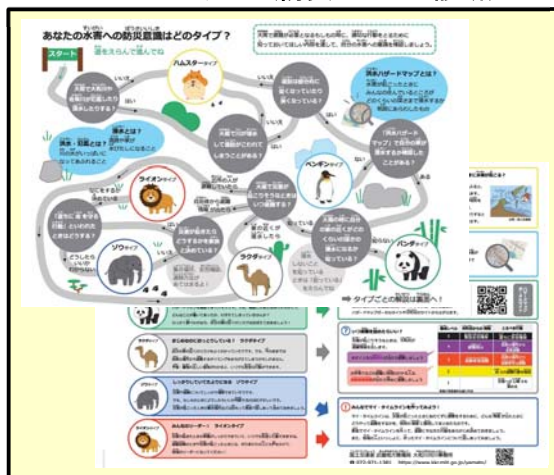
マイタイムライン(避難計画)の作成

もし実際に水災害が起きた時にどのように避難するか計画を立ててもらい、お住まいの地域のハザードマップをお渡ししました
小学生向けに、夏休みの自由研究としても使える避難計画作成キットを活用し、水災害への理解や避難計画を作成してもらいました

●【配布物】小学生向けの避難計画作成キット



●【配布物】動物のイラストを用いた防災意識アンケート(防災アニマル診断)



大和郡山市長も
ご来場されました

流域治水グッズ



○参加者の感想

- ・とても分かりやすかったです。一人一人の心がけが大切だということが分かりました。ありがとうございました。
- ・今迄、災害とは無関係な感じだったが、これからは考えていこうと思う。なかなか面白かったです。
- ・模型がとても分かりやすくイメージしやすかった。

令和7年度も流域の施設で実施予定

大和川河川事務所の取組状況

【1. 避難】住民等の水防災意識社会再構築のための支援 (Phase1～5に向けて)

取組機関名	大和川河川事務所
具体的取組	【No.25】水災害意識啓発の広報
主な内容	・災害対策用車両である照明車を展示し、出動時の状況を参加者に説明 ・大和川流域で行っている流域治水対策の取組や水害への備えの必要性についてのパネルを展示 ・自分の防災意識レベルがわかる防災意識アンケートを配布し、防災意識向上を図るとともに、マイ・タイムライン（防災行動計画）が作成できる「マイ・タイムラインノート」を配布

○開催概要

- 日 時：令和6年10月20日(日) 9:00～12:15
- 場 所：奈良市都祁生涯スポーツセンター（奈良県奈良市都祁馬場町）
- 主 催：奈良県、奈良市
- 参加機関：80機関

○イベントの様子



奈良県知事への取り組み内容説明



照明車の災害対応について説明



流域内自治体のハザードマップORコード展示



防災意識アンケートについて説明

●【配布物】マイ・タイムラインノート



○参加者の感想

- ・国交省が、このような車で災害対応しているのを初めて知った。
- ・被災地でボランティアをしているとき、照明車が照らしてくれているのを経験したことがある。とても明るくて、ありがたかった。
- ・展示しているQRコードで住んでいる場所のハザードマップを確認することができて良かった。
- ・「マイ・タイムラインノート」を使って家でマイ・タイムラインを作成し、避難に備えるようにしたい。
- ・大和川河川事務所のHPやSNSで発信している情報をいつも参考にしている。

令和7年度も流域の防災イベントで実施予定

大和川河川事務所の取組状況

【1. 避難】住民等の水防災意識社会再構築のための支援 (Phase1～5・率先避難者に向けて)



水防災意識社会
再構築ビジョン

取組機関名	大和川河川事務所・奈良県・田原本町
具体的取組	【No.22】住民一人一人の避難計画・情報マップの作成促進
主な内容	・近年の気象災害と情報の活用に関する講座 ・マイ・タイムラインの作成

○開催概要

- 日時：令和6年9月22日(日)
10:00～12:00
- 場所：田原本町社会福祉協議会大ホール
- 参加者：53名（田原本町住民）
- 講師：気象予報士 澤 麻美氏



気象予報士 澤麻美氏

○講習会の様子



講習会の様子



マイ・タイムラインの作成（気象予報士 澤麻美氏）



自宅の水害リスクを確認



情報提供（水害への備え）
奈良県河川整備課



開会挨拶
高江田原本町長



閉会挨拶
大和川河川事務所長

○参加者の感想

- ・風水害のタイムラインも大変勉強になりました。こういった準備があれば、地震時にも役立つことがあると思います。備えることが出来ると思います。
- ・在宅避難が良いのか？避難所への避難した方が良いのか？迷うが、どの場面で避難所へ行けばよいのか、自身の中で明確にする必要がある。
- ・避難先へのルートが自宅より浸水しやすいエリアを通る必要がある場合は、避難するべきかどうかの判断が難しいのではないかと思います。
- ・今後もこのような講習会を実施してほしい。
- ・タイムラインでさらに自身の行動すべき事項などを作成したい。

○水平展開に向けた取組

- ・講習会運営の流れをとりまとめた動画を作成し、減災対策協議会担当者会議（R6.12月）で共有した。



令和7年度も流域の自治体で実施予定

大和川河川事務所の取組状況

【1. 避難】住民等の水防災意識社会再構築のための支援 (要配慮者利用施設に向けて)

取組機関名	大和川河川事務所・大阪市東住吉区
具体的取組	【No.23】要配慮者利用施設の避難計画作成の促進および避難訓練の促進支援
主な内容	・要配慮者利用施設の避難訓練の運営支援・訓練に関する助言

○ 訓練概要

【日 時】令和6年10月5日(土) 15:15～16:10

【場 所】医療法人西中医学会 西中介護老人保健施設ヴィーブルジョワ サービス付き高齢者向け住宅リアンド ヴィーブル

【参加者】施設職員 15名

○ 訓練までの背景

：事前打ち合わせ

<施設職員>
これまでの避難訓練では、**いつも同じ訓練**を実施している。

<河川事務所>
避難の実行性を高めるためには、**訓練で行動内容を明確化**させることが重要です。各職員の役割を決めるために、**班を設定**してみたいかがでしょうか。

①全体を指揮する「統括指揮者」
②情報収集や伝達を担当する「情報連絡班」
③利用者の避難支援を担当する「避難誘導班」
④避難に必要な設備や装備品等を点検し準備する「装備品等準備班」

：机上訓練

<施設職員>
いただいた助言を踏まえ、作成したタイムラインの読み合わせを行い、**各職員が洪水時のイメージ**を持つことができました。

<河川事務所>
皆さんは、**各班の行動が同時**に行われていることをイメージできますでしょうか。施設全体の避難行動を整理するために、**施設タイムライン**を作成してみたいかがでしょうか。

要配慮者利用施設
タイムライン

：実動訓練 施設タイムラインを用いた実動訓練の実施

○ 訓練の様子



○ 施設職員によるふりかえり

- ホワイトボードやノートに行動の記録を行うことで、避難の進行状況の把握や今後の改善に役立つと実感した。
- 今回初めて班編成を行った上で避難訓練を実施したが、班編成及び役割分担を行うことで「誰かがやるだろう」というのが無くなった。また、指揮者等少人数で訓練のシナリオを考えていたが、各班で考えるようになり、職員の意識が高まった。
- 班と本部の連絡については携帯電話を使用していたが、本部が他の班と連絡していると連絡がとれない場合があるため、無線等を活用しても良いかも知れない。

○ 水平展開に向けた取組

- ① 要配慮者利用施設の実動訓練の様子をとりまとめた動画を作成し、減災対策協議会担当者会議(R6.12月)で共有した。
- ② 訓練を踏まえ、施設職員の行動整理や、自治体等職員の施設側の出水時行動の流れ把握等で活用する要配慮者利用施設タイムラインシートの行動拡充を行った。



大和川河川事務所の取組状況

【1. 避難】住民等の水防災意識社会再構築のための支援 (要配慮者利用施設に向けて)

取組機関名	大和川河川事務所・松原市・大阪管区気象台（見学：大阪府、東大阪市）
具体的取組	【No.23】要配慮者利用施設の避難計画作成の促進および避難訓練の促進支援
主な内容	- 避難訓練の必要性に関する講義（松原市） - 防災気象情報に関する講義（大阪管区気象台） - 意見交換会（大和川河川事務所）

○開催概要

【日時】令和6年12月6日（金）14時～16時

【場所】松原市役所

【参加者】要配慮者利用施設関係者 29施設37名、行政関係者（気象台、大阪府、自治体）12名

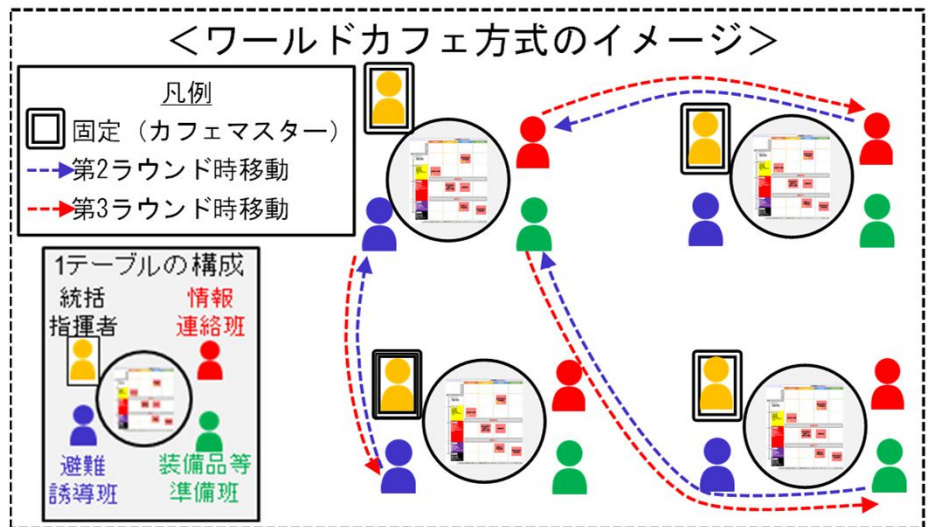
○講習会の様子



ワールドカフェによる意見交換



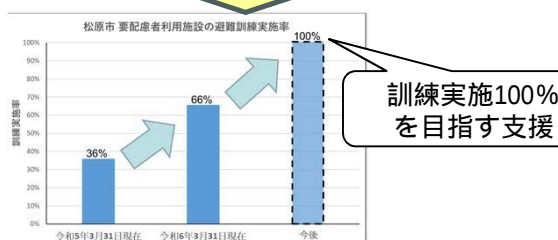
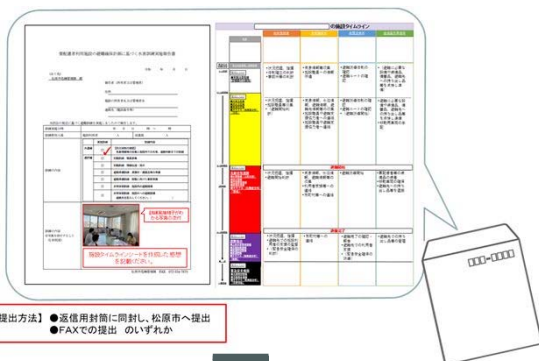
完成したタイムラインシートを撮影（記録）し、各施設のタイムライン作成に活用



4人1班で役割を決めて意見交換し、その後別班に移動、その班の意見を収集し、元の班に戻り、意見を集約してタイムラインシートを完成させる。

○講習会后について

- 後日、各施設でタイムラインを検討（机上訓練）してもらい、避難訓練実施を郵送で報告



○水平展開に向けた取組

- 講習会運営の流れをとりまとめた動画を作成し、減災対策協議会担当者会議（R6.12月）で共有した。



大和川河川事務所の取組状況

【1. 避難】 行政機関の防災体制整備 / 【2. 防ぐ】

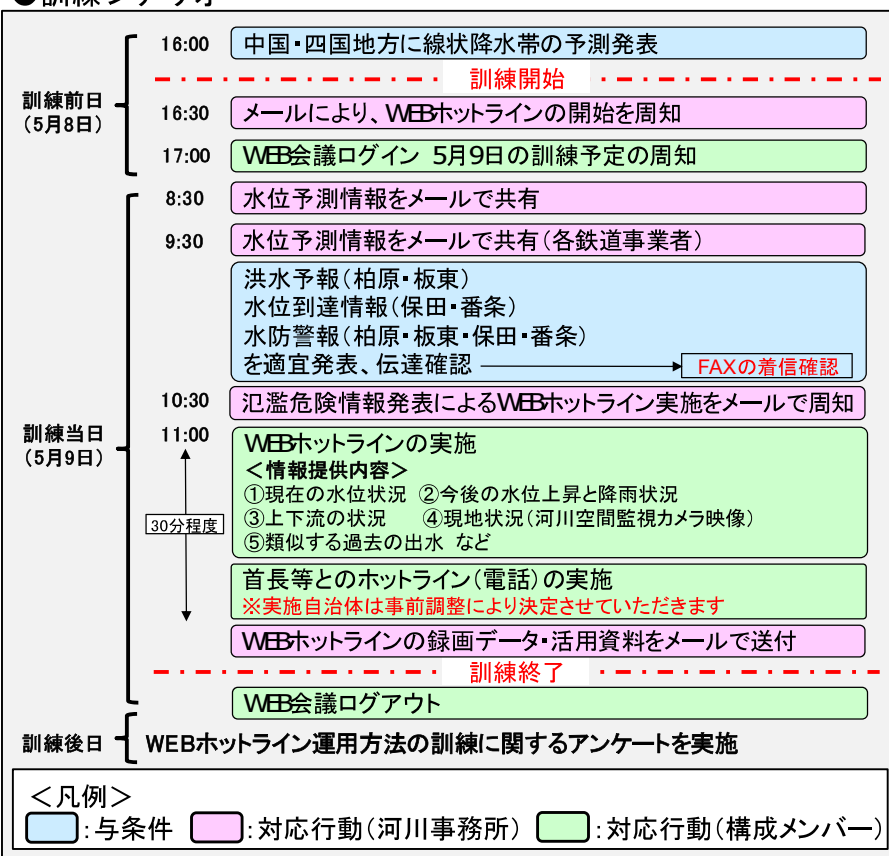
取組機関名	大和川河川事務所・減災対策協議会構成メンバー
具体的取組	【No. 13】タイムラインに基づく訓練の実施 【No. 36】水防団（消防団含む）との伝達訓練の実施
主な内容	・出水に備え、FAX、電話およびWEBホットラインによる河川水位などに関する情報伝達訓練

開催概要

- ・日時：令和6年5月8日（木）～5月9日（木）
- ・場所：大和川河川事務所・WEB会議システム
- ・参加者：減災対策協議会構成メンバー

訓練シナリオ・活用資料

●訓練シナリオ



●活用資料



訓練の様子



＜氾濫危険情報発表時のWEBホットライン（5月9日）＞
（大和川河川事務所災害対策室）

＜WEB会議接続開始時_5月8日＞

大和川河川事務所の取組状況

【2. 防ぐ】

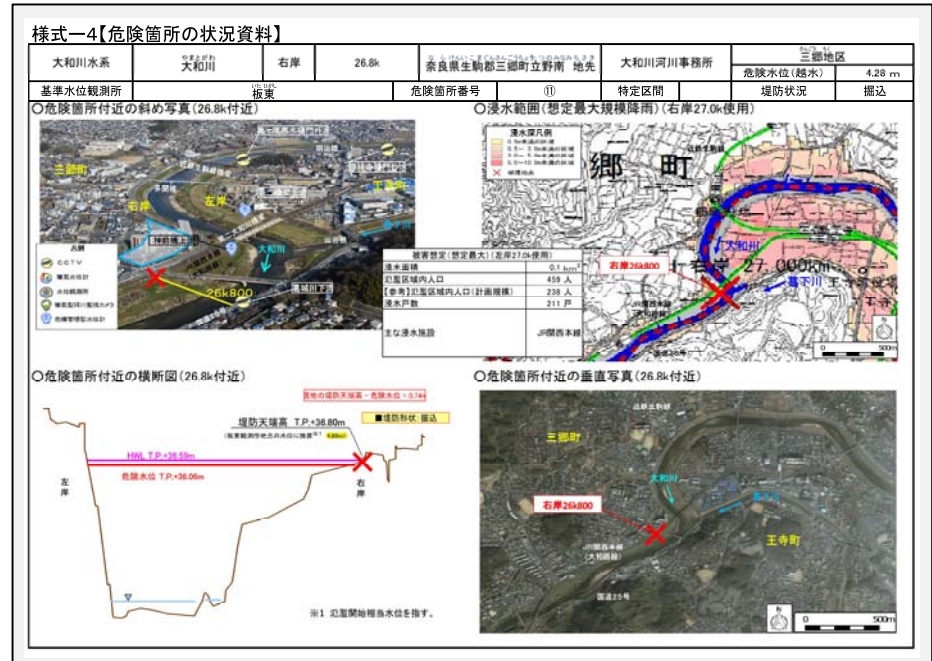
取組機関名	大和川河川事務所・減災対策協議会構成メンバー
具体的取組	【No.40】重要水防箇所の情報共有と関係市町等との共同点検の実施
主な内容	・出水時にいち早く危険水位や越水する水位に達する自治体毎の危険箇所の位置の確認 ・危険箇所の状況を把握できる危機管理型水位計や簡易カメラ位置の確認

開催概要

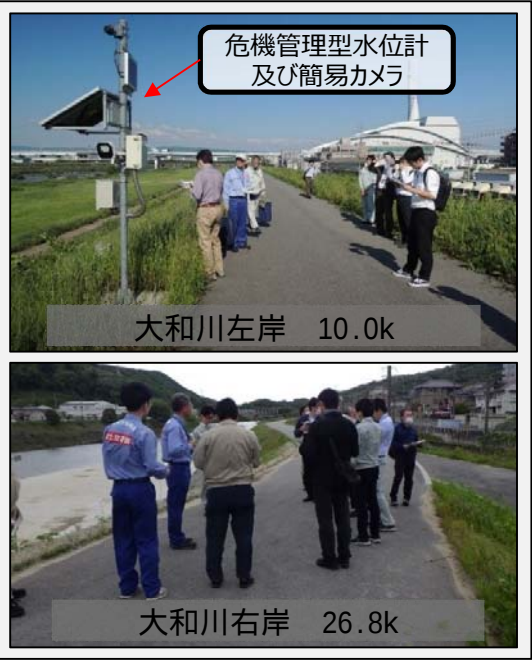
- 日 時：令和6年4月24日(水)～5月14日(火) 合計6回
- 場 所：大和川、佐保川、曾我川の危険箇所（越水）、危険箇所（避難）
- 参加機関：【奈良県】 12機関
奈良地方気象台、奈良県、大和郡山市、三郷町、斑鳩町、安堵町、川西町、三宅町、王寺町、広陵町、河合町、近畿日本鉄道株式会社
- 【大阪府域】 12機関
大阪管区気象台、大阪府、大阪市、堺市、八尾市、松原市、柏原市、藤井寺市、近畿日本鉄道株式会社、大阪市高速電気軌道株式会社、南海電気鉄道株式会社、大和川右岸水防事務組合

○ 活用資料・合同巡視の様子

● 活用資料



● 合同巡視の様子



○ 参加者の感想

- ・ 6月1日からの出水期前に、危険箇所や危険箇所での想定氾濫区域を確認できた。出水期に向けて準備を行ってきたい。
- ・ 職場内でも、危険箇所の情報を共有していきたい。
- ・ 当該市域にない危険箇所でもいち早く越水することで、氾濫が広がり、浸水する恐れがあることを確認できた。避難に関する情報として活用したい。
- ・ 4月の異動で、大和川の危険箇所を理解していなかったが、合同巡視に参加でき、水位上昇でいち早く危険になる箇所を確認できたことで、今後の出水期に備えたい。

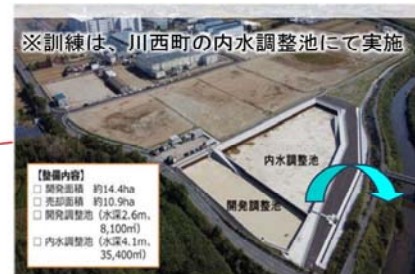
大和川河川事務所の取組状況

【3. 回復】

取組機関名	大和川河川事務所・川西町
具体的取組	【No.46】排水に関する訓練の実施
主な内容	・排水ポンプ車・排水作業準備計画の説明内水調整池から飛鳥川への排水訓練

開催概要

- 日 時：令和6年12月23日(月)
- 場 所：川西町保田地先 内水調整池
- 参加者：15名
 - ・大和川河川事務所職員
 - ・川西町職員



○ 排水訓練の様子

排水作業準備計画の説明



排水の様子



○ 参加者の声

- ・ 実際の排水能力を見て、非常時には大きく期待できると思った。
- ・ 訓練することによって、排水作業準備計画のイメージが明確になった。